

ほんばこ



さつき さなえづき しょうぶづき
5月(皐月・早苗月・菖蒲月)

※二十四節気※

りっか
立夏 6日

暦の上では夏の始まりの日。新緑が輝き、カエルが鳴き始めます。

しょうまん
小満 21日

草木などの生物が生長して生い茂り、地に満ち溢れてきます。

愛媛県立今治西高等学校図書委員会 2023

桜が散り、青葉が美しい季節となりました。日中は暖かくなっていますが、朝晩の寒暖差は大きいので、体調に気を付けながら読書にも励んでいきましょう。今回は、新学期に読んでほしい本を紹介しようと思います。

図書委員よりお勧めの本

『死神の精度』 伊坂幸太郎 著 (文春文庫)

この本は一風変わった死神・千葉が、死期の近い人とのやり取りの中でその人の死に可否をくだすという話です。登場する人達は、性別も年齢も様々ですが、死神との出会いで人生が少しずつ変わっていきます。新学期が始まって約1か月が経ち、先生や友達、部活の仲間などたくさんの人との新しい出会いにとまどっている人も多いと思います。しかし新しい出会いは、自分や相手に大きな変化を与えてくれるものです。新たな出会いを求めて校内外の様々な活動に参加してみてもいいのではないでしょうか。
(3年生 女子)

令和5年4月21日(金)に行った『私の勧める一冊の本』のアンケートをもとに、著者別、作品別にランキング形式で発表します。

生徒お薦めの本ランキング (全学年)

	作品名	著者名	票
	こころ	夏目漱石	39
2位	かがみの孤城	辻村深月	9
3位	カラフル	森 絵都	8
4位	舞姫	森 鷗外	7
4位	ハリーポッターシリーズ	ローリング	7
6位	容疑者 X の献身	東野圭吾	6
6位	そしてバトンは渡された	瀬尾まいこ	6
8位	吾輩は猫である	夏目漱石	5
8位	人間失格	太宰 治	5
8位	アルジャーノンに花束を	キース	5

著者別ランキング (全学年)




	著者名	票
	夏目漱石	59
	東野圭吾	31
	芥川龍之介	24
4位	湊かなえ	16
5位	住野よる	15

6位	辻村深月	15
7位	知念実希人	12
8位	森鷗外	11
8位	太宰治	11
10位	ハンセン	8

学年別で最も得票数が多かった作品

3年生	票	2年生	票	1年生	票
こころ 夏目漱石	10	こころ 夏目漱石	29	河童・杜子春 芥川龍之介	6

学年別お薦めの著者ランキング

	3年生	票	2年生	票	1年生	票
	東野圭吾	16	夏目漱石	32	芥川龍之介	24
	夏目漱石	13	東野圭吾	12	夏目漱石	14
	森鷗外	9	住野よる	9	湊かなえ	11

【コメント】

夏目漱石が圧倒的に多かった。これが今年の特徴だ。高3は旧課程で2年次の冬に現代文で『こころ』を扱った。高2は新課程で2年次の文学国語で『こころ』を扱うので春休みの宿題で読んだ。その結果、強烈な印象を受け、『こころ』を挙げたのだろう。ほかにも『猫』『三四郎』も挙がっている。いずれも読むに値する作品だ。漱石は国民的作家だが、さらには世界文学に列されるべき大作家と私は考える。高校時代に漱石の小説や文明批評を少なくとも複数冊読もう。森鷗外も同様だ。いわゆる純文学では、芥川や太宰も上位だった。

ほかにここ十年で多いものでは、東野圭吾、湊かなえ、住野よる、辻村深月などが挙がっている。

世界文学が少ない。ドストエフスキー、トルストイ、バルザック、ユゴー、スタンダール、ブロンテ姉妹、ディケンズ、フォークナー、ヘミングウェイ、サリンジャーなどは必読だろう。中南米では、バルガス＝リョサ、ガルシア＝マルケス、フェンテスなども非常に面白い。世界の人々の心を知るには、観光名所でグッズを買い漁るだけでいいだろうか？ それでは、現地の人の生活感覚や深い思索はわからない。その時代社会を生きて深く感じ深く考えた人の作品を読むことで、より深く相手のことがわかる。(日本文学においても同じだ。) 60年代には世界文学を読むのは当然だった。70年代にもドストエフスキーやロマン・ロランを読んでいない大学生は恥ずかしいと言われた。当時の政府高官が「今の大学生はロシアやフランスの世界文学は随分読んでいるが、日本の古典を知らない」と嘆いたというエピソードがある。それほど世界文学を読んでいたということだ。今の若者はどうだろうか。大江健三郎も村上春樹も世界文学を読んで育った。

図書委員会主催第1回校内読書会案内 (R.5.7.14(金)⑦～ 本校図書館)

本校では図書委員会主催図書館読書会を年に2回(7月と12月)実施している。ここ数年は、アメリカ文学(オー・ヘンリー、フォークナー)、日本文学(安岡章太郎、坂口安吾)、西欧文学(ヘッセ、ジッド)、日本文学(大江健三郎、原民喜)、世界の古代思想(プラトン、聖書)と読んできた。今年度は日本の番だ。7月は、『伊勢物語』を扱う。参加希望者は最寄りの図書委員または図書館の先生に聞いてみてください。いくつかの章段を扱い、話し合う。あらかじめ資料を読んでおくことよい。文庫本で入手できるので購入するのもよい。

『伊勢物語』: 平安前期成立の歌物語。在原業平(ありはらなりひら)を思わせる「昔男」なる人物が主人公で、短い多くの物語からなる。昔男が例えば恋愛をし、親しい人と桜をめぐる。そこで歌を詠む。そこに「雅(みやび)」がある。『竹取物語』とともに日本の物語および美意識の源流をなすものであり、後世繰り返し模倣され語り直されてきた。

朝の読書について

全校一斉朝の読書を励行しています。8時20分から朝の閑寂(かんじゃく)な雰囲気の中で学校生活が始まっています。また、各自が自覚を持って自分で本を選んで読んでいます。2, 3年生は新書を読む人が増えました。「自治向上」の帆を張り、自ら問いを立て探求し学びあうことが現代においては必須です。学校の課題などは家で済ませ、朝は余裕を持って朝読書を行います。土日は高度な探究的学習や発展的読書に取り組みたいものです。21世紀を担うのはあなたです。(安井)